

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人
印刷所：S R S 株式会社
定 価：一部30円

2013年11月20日
第**366**号

子育てを社会で支えよう

理事長 稲松 義人

先週の土曜日、私は、静岡県知的障害者福祉協会発達支援部会からの案内を受けて、「児童虐待防止・静岡のつどい」に参加しました。これは児童養護施設関係の人たちなどが中心になって準備した集会ですが、障がいがあっても子どもは子どもであり、同じ時代と同じ社会の中で起こっている児童虐待の暗い影は、小羊学園の日常の取り組みにおいても避けては通れない大きなテーマになっています。

今回の集会は、第一部で児童虐待の実態を知るための講演があり、そのあと第二部として、静岡市の中心市街をマージングバンドが先導し、関係者約400人でのぼりや横幕を掲げてパレードしました。今回5回目というパレードに、今年も静岡県の川勝知事も参加してくださったことも収穫でした。きつとそのことで、マスコミはより大きく取り上げてくださり、ニュースとしてより多くの人たちが、児童虐待の問題に触れることになったに違いありません。

このような取り組みを、社会福祉の世界では、ソーシャルアクションといいます。社会にある福祉的な課題について多くの人に知ってもらい、問題を社会全体で共有し、課題解決に向けた取り組みを前進

させるための手法と言えるでしょう。私たちが伝えたいことは大きく2つあるだろうと思います。一つ目は、親など日常的に子どもに向き合う人たちが、子育てに行き詰まってしまうその困難に耐え切れず虐待に至ってしまうのではなく、一人で抱え込まないで社会に助けを求めてほしいということです。二つ目は、虐待の問題を加害者になってしまいう親たちだけの問題にするのではなく、社会全体の問題として受け止め、親を支え、また子どもたちが健やかに育つことができるよう、自分にできるところで関わりをもつて、児童虐待防止の協力者になってほしいということです。

いつの時代も、社会のひずみの犠牲者となるのは、子どもたちのような弱い立場の人たちです。戦争のときも、社会全体を揺るがず大災害のときにも、みんなが直面する危機的な状況の中で、そこを生き抜くことができず犠牲者になるのは弱い人たちであると思います。だからこそ、普段から弱い立場の人たちに配慮した社会をみんなで作ることが大切なのです。社会福祉の仕事は行政の責任ではない、自分たちが直接関わることではないと考えている社会は、本当に成熟した市民社会とは言えないと思います。

戦後の日本は、社会福祉の取り組みを「施設」を中心に展開してきたように思います。小羊学園も同じです。重い障がいがある家庭と地域で育つことのできない子どもたちを、施設に受け入れて支援してきました。私たちの先輩たちは、熱心に誠実に支援してきたと思えます。そして私たちがそのことを精一杯受け継ぎたいと思います。しかし、次から次に求められる支援に十分に応えることができません。社会福祉の制度上で役割を持つ人たちが精一杯歯を食い縛って頑張ったところで、根本の問題は解決しないと感じます。自分たちの負うものの重さに耐え切れなくなると、私たち支援者もまた、心ならず虐待に走ってしまうことも考えられるのです。

家庭の中で、あるいは施設の中で、子どもたちに向き合い精一杯頑張るだけではなく、自分たちが社会に開かれた意識をもつて、ソーシャルアクションに取り組むことは、私たちの大切な役割だと感じています。

相談員たちは、「お母さんたち、抱え込まないで相談に来て！」と呼びかけます。しかし、施設に預けることが問題解決ではなく、社会の中で支えてもらい、母親自身が課題に向き合うことができよう、一緒に考えていきましょう。できることから少しずつやっていきましょう、というのが相談員の本当の願いだろうと思います。

小羊学園ふれあい運動会

〜 走り・笑い・応援した、秋の思い出 〜

浜松地区の通所事業所の交流を目的に、今年で5回目を迎えたふれあい運動会が10月11日(金)浜北グリーンアリーナで行なわれました。みんなが頑張っている様子を報告します。

今年こそは優勝だ！

オリーブの樹 大塚 篤史

第5回ふれあい運動会開催にあたり、まず大切にされたことは、勝敗や順位も大事ですが利用者や観戦される保護者、職員が皆で楽しめるものにしたということ。体を動かすことの楽しさ、仲間を応援することの楽しさを、実感してくれればという思いでした。普段法人全体が一同に介する機会が少ないなかで行われる運動会ですので、利用者、職員ともに交流することが出来るという楽しみもありました。

また、競技の楽しみのひとつといえば、パン食い競走ですが、運動会で使われているパンは、毎年オリーブで作っているパンを使用して行われています。今年は250個のパンの依頼があり、パン班は前日からパン工房に入り、愛情を込めてパン作りを行ってくれました。種類も、クリームパン、メロンパン、あんぱん、カレーパンなど多種多様なパンを作って



頂き、一つひとつ丁寧に包装してくれました。応援隊も横断幕を新調したり、鉢巻を洗濯したり、ライトグリーン色のオリーブTシャツを用意したりして、大会当日に臨みました。「今年こそは優勝しよう！」そんな言葉も利用者から聞こえていました。

キラキラ笑顔で

小羊デイケアホーム 鈴木 真里

待ちに待った競技のスタートです。最初は、30m・15mの徒競走です。スタート位置について皆さん「パン」とピストルの音で一斉に走り出します。真剣な表情の方、マイペースな方とそれぞれですが、ゴールテープを切った時の皆さんの顔がキラキラ輝いていました。練習の成果が発揮されましたね。

ぱびるすの子どもたちはゴールテープを切ると、その先で待っていた職員にハグで迎えられてさらに笑顔になっていましたね。車椅子を力一杯自分の力でこいでいた方や嬉しい気持ちで溢れ足早に歩行器で参加されたタクヤさんに、大きな声援がとびかいました。

次の種目は、皆さんお待ちかねの「パン食い競争」でした。初めて参加されたリヨウスケさんは、勢いのあまりパンのぶら下がった棒に頭をぶつけてしまいました。ですが、パン食い競争の基本「口で取る」を忠実に守り、頑張つて口で取りました。保護者の方や職員も熾烈なパン食い競争に参加しました。「お母さんの分も取る！」と張り切っていた利用者さんもいました。

パンとクッキーを提供していただいた、オリーブの樹と小羊デイケアホームの皆さんありがとうございました。



エキゾチックにファイヤー

マルカート 中西 洋子

昼食は、お弁当を室内で食べられる方々や、天気も良かったため、外で食べられる方々もいらつやいました。外は、青空のもと気持ちよく、競技と同じように汗を掻きながらの昼食となったようです。

昼食後は、皆さんお待ちかね、魅惑的倶楽部(エキゾチッククラブ)の皆さんの登場です。体育館中に、音楽が流れ、ダンスが始まると、応援席でゆったり鑑賞する方や、前に出て一緒に体を動かす方など、楽しいひと時を過ごされます。

みんなの熱気が広がる中、魅惑的倶楽部の方々も汗いっぱいになりながら披露してくださいました。また今年も、

衣装を身にまとった、小さな仲間たちもいました。ぱびるすの子どもたちです。「年々、近くまで来て一緒に歌ったり踊ってくれたりする利用者が増えてくれるのが嬉しい。また、小さい子たちが衣装を着て参加してくれたのが、かわいかった！」と、魅惑的倶楽部の方々が話してくれたことが、嬉しく印象的でした。

来年も、楽しみですね。



熱いデッドヒート

三方原スクエア 中根 良之

午後の競技は玉入れ、大玉転がし、男女混合リレーの3種目です。得点競技という事で、各事業所同士がライバルとなり競い合いました。まずは玉入れです。

今年は1点と5点の箱の他に対戦相手の職員が5点の籠を背負い動き回りました。動き回る籠に玉を入れようと悪戦苦闘していました。マルカートが的確に5点を狙い、他の事業所を寄せ付けないダントツの1位でした。他の事業所も必死に玉を入れようとする方や、笑顔で競技に参加している方もおり、それぞれに楽しめたのではないかと思います。

続いては大玉転がしです。大玉転がしでは珍プレー好プレーが多く見られます。大玉がどこかへ行ってしまう人、勢い余って大玉にのってしまいう方もいました。その中でオリーブの樹が圧倒的な速さで1位となりました。ぱびるすの子どもたちも小さな体を目指し、ぱびるすの手に大玉を転がしていました。日々の練習の成果が出ていたようです。

最後の競技は男女混合リレーです。優勝が決まる一戦ということで皆の気持ちも盛り上がってきます。また、利用者・職員が1丸となって競うということで応援にも熱が入ります。レース後半にはイケアホームとオリーブの樹がデッドヒートを繰り広げ、僅差でのゴールとなりました。結果はイケアホームが1位、オリーブの樹が2位でした。午後の競技は皆で白熱し、運動会らしい雰囲気になったのではないかと思います。また、充実した内容に利用者・職員共に楽しめたようです。

優勝の喜び+

みんなの達成感

支援センターわかぎ 黒田 大空

午後の得点競技も終わり、いよいよ結果発表です。今年の優勝チームはマルカートでした。わかぎは今年「努力賞」を頂きました。どの選手も疲れていましたが、やりきった達成感と清々しい表情がみられました。

最後の表彰状と参加賞を壇上に上がり、受け取る大役を皆やりたい気持ちでいるので、大役をやれた選手の嬉しそうな顔が私は一番好きです。

無事に第5回小羊ふれあい運動会は幕を閉じることが出来ました。小さなトランプルはあったものの利用者達に怪我もなく、元気で楽しそうな姿を見ることが出来て良かったです。わかぎに異動の前はスクエアに居たので、運動会はスクエアの利用者とふれあえる楽しい時間です。利用者達もそれぞれに懐かしい職員と話し、ふれあっている場面を見るといつも顔がほころんでしまいます。

今年で当施設を一周し、来年度は第6回、当施設はオリーブの樹です。小羊ふれあい運動会第2章のスタートです。来年はどんな種目が出てくるのか楽しみです。

ふれあい運動会 実行委員に聞きました!

実行委員長 支援センターわかぎ 黒田 大空さん

- Q. 今年のふれあい運動会の準備で心がけたことは?
- A. ただ、ただ、全力でした。
- Q. 運動会の開催中に感動したことは?
- A. 予想以上に玉入れが皆上手かったです。
- Q. 利用者が楽しめるように心掛けたことは?
- A. 昨年同様、名MCコンビの起用です。
- Q. 次年度への反省を聞かせてください。
- A. 実行委員には目印を付けて分かりやすくします。



前列最右側が黒田実行委員長

耕耘機・草刈り機をいただく
浜松ロータリークラブ様



小羊学園か

らは三方原スクエア出水厳生施設長が出席し、阿部俊一会長様から目録を受けました。ロータリークラブ内の奉仕プロジェクト部会・社会委員長の伊藤洋夫様のご助言もあって贈呈先として小羊学園を選出下さったようです。浜松ロータリークラブとのお付き合いは、小羊学園創立期から続いています。毎月1〜2回会員のご婦人方が洗濯物畳や仕分をお手伝いしてくださいませ。贈呈式の挨拶において出水施設長は、「貴重なご寄付を頂けることは大変嬉しく、また私達の仕事や障がいを持つ方に対して、理解をしながら支えてくださるということが何よりも励みになります」と述べました。翌2日には新

品の耕耘機1台・草刈り機6台が納品され、13日には浜松ロータリークラブ会員13人の方が来園され、耕耘機と草刈り機を使って奉仕作業を行ってくださいました。

支援センターわかぎ定礎式

10月19日(土)支援センターわかぎ改築工事の定礎式が行われました。利用者・保護者・施行業者・法人関係者・職員約90名が参加し、浜北教会大橋牧師の司式で礼拝が行われました。式典では、正面玄関左側に聖書・写



真・名簿等を壺に収め埋設を致しました。改築工事も順調に進んでおり、来春の完成が待ち遠しいです。

クリスマスが待ち遠しい!

クリスマスまであとわずか。待降節(アドヴェント)に入りイエスさまのご降誕を祝い良き準備に入っています。

三方原スクエア

13日 18:00~ キャンドルサービス 三方原栄光教会
21日 10:00~ 記念礼拝 三方原スクエア

支援センターわかぎ

18日 13:30~ なゆた浜北ホール

つばさ静岡

15日 10:40~ つばさ静岡ホール

小羊デイケアホーム

20日 13:00~ デイケアホーム集会室

マルカート

20日 13:30~ マルカートホール

オリーブの樹

20日 10:00~ オリーブの樹活動室

ぱびるす

20日 11:00~ ぱびるす集会室

ドルチェ

21日 11:30~ マルカートホール

わかな

25日 10:00~ オリーブの樹活動室



今年の秋は本当に短かった。夏模様が10月まで続き、11月には冬が到来し始めた。一説によると地球温暖化の影響もあるとか。環境というテーマは現世代が後世の人々に豊かな地球を残すべき大きなテーマ。全世界が経済主義やエネルギー依存について具現的に議論すべきであろう。自国に目を向け、日本が抱える原発依存についても再考すべき。原爆投下・原発事故と2度の放射能汚染を経験し、かつ使用済み燃料処分が確定しない中で、推進にベクトルを向けているのは後世に無責任すぎないかと福島との繋がりが日々思う。寒さが身に沁みます。どうぞお身体ご自愛ください。(F)

編集後記

小羊学園を支える会

2013年度寄付金報告

10月受付分 715,272円 (26件)
累計 2,609,142円 (199件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。小羊学園を支える会事務局(鈴木) 三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833